

はじめまして！ こんにちは 「ははラボ」です！

地球危機の解決策を発信・実践しています
メルマガ第1号（2020.9.11発行）

わたしたちのラボ

「母なる地球を守ろう研究所」

を紹介させていただきます！



所長
ヒロシ



切り込み隊長
まあま



情熱派
もりもり先生

気候崩壊を止めるには… 今がラストチャンス

もう生ぬるいこと言ってらんないのです…！

このまま気候崩壊が悪化すると…

2人に1人しか
生き残れない

という予測もあります。
（イギリス「カーデザイン」）

災害や酷暑が当たり前になり
人が住める場所が激減し、
土地や食糧水をめぐって
争うことになる…

イメージは、
マンガの「サバイバル」や
映画の「MADMAX」よ！

我々はこの世界を
「デストピア」と
呼んでいるわ！

「となりの人は敵」みたいな
心理状況がデストピア。
そんなんじゃ生きるの、
しんどくない？

このままでは
イカンぜよ！

この危機を救うべく、

三人は **暑苦し**
活動してきました。



これから
農業よ

ヒロシは研究と
農業を…



決めた
アタシ薬剤師
やめて農家には

まあむは色々捨てて
就農



ボクが自然を
守らねば

もうどうも全社員を辞め
田舎へ移住…

でもあるとき、
気づいたんです…

三人だけで
地球を救うのは
ムリだなと…



みんなの力を
借りたいです…

あらあ
そうよねえ

お金かけずに
できること
あるよ～

奪い合う社会から
分かち合う社会へ。



身近な人と
助け合おう



一緒にやろうよ！
うーい

合い言葉は
地域でぐるぐる



野菜づくりは
むずかしくないよ
たのしいよ～

その先に、
今よりもっと
豊かな未来が
待ってるよ！



みんながデストピアを
避けられるように…

わたしたちの目標
母なる地球を
共に守る仲間を
もっと増やしたい

まずはラボを
のぞいてみてね

オンライン
セミナー

今すぐできるアイディア
たくさん紹介します

次回は いずれも（火）

9/15・9/22・9/29



母なる地球を
守ろう研究所



ちょっと気を
つけば
誰でもできること
あるよ～



母なる地球を一緒に守りませんか？

理事長 長谷川浩

年を経るごとに、夏は暑くなり、ゲリラ豪雨は頻発しています。農業をやっていると気候が変わってしまったと痛感します。もっと暑くなったら、もっと雨が激しくなったら、一方で、雨が降らない日照りも酷くなったどうなってしまうのでしょうか？

一つしかない地球に 77 億人を超える人々が住んでいます。おおげさでなく、地球は人々でいっぱいになってしまいました。これほどの人々が誰も取り残されることなく幸せに平等に生きていくためには、食料とそれを生産する農地、飲み水や農業の灌漑水とそれを涵養する水源地と降雨、自然災害に遭うことなく住める家、集落が欠かせません。

それを支えてくれているのが安定した気候、さまざまな生きものが棲める居場所（ハビタット）を支える母なる地球です。

しかし、われわれは知らず知らずのうちに母なる地球を壊しています。このままでは、いまの子供たちが大人になった頃には、ディストピアになってしまうかもしれません。ディストピアはユートピアの反意語で、日本語では暗黒世界や地獄郷と訳されます。

具体的には、熱帯は暑すぎて人が住めなくなり、乾燥地は水不足で人が住めなくなるでしょう。世界各地にある農業研究機関ネットワーク（CGIAR）は 2 億人の難民が出ると警告しています。直近ではシリアの大干魃や内戦で 100 万人の難民が出て、ヨーロッパに押し寄せました。安定していたヨーロッパの政局は一気に不安定になり、ポピュリズム（大衆迎合主義）が台頭したのは記憶に新しいところです。2 億人とはシリア難民の 200 倍の途方もない数字です。さらに悲観的な見方では、現人口の半分の 40 億人も生き残れないとしています。詳しくは、今後のメルマガで説明します。

2020 年は新型コロナウイルスの世界的大発生（パンデミック）で人々の行動が大きく変わりました。世界各地で、新しい社会像を模索する問題提起や新たな活動が始まっています。母なる地球を守って、未来の世代にユートピアを残す活動を一緒にしませんか？

母なる地球を守ろう研究所

メール hasegawa@motherearthresearchinstitute.org

ホームページ <https://www.motherearthresearchinstitute.org/>

母なる地球を守ろう研究所の主な活動

- ・ zoom を使ったセミナー（案内は次のページから）
- ・ 有機農法などの現地学習会や見学会（アナログ、今後は zoom 見学会も予定）
- ・ 政策提言（zoom で検討会を開催します）
- ・ 放牧の実践と生産物の販売

活動を支えてくださる方を募集していますので、ホームページをご覧ください。

<https://www.motherearthresearchinstitute.org/>

- ・ 正会員として
- ・ 寄付で
- ・ セミナーに参加したり、知人友人をセミナーに誘って

役員の紹介

有機農法や自然エネルギーを行い、母なる地球を守る活動実践家です。

理事長：長谷川浩 経歴・所属：名古屋大学農学研究科卒業、国の研究所で有機農業等の研究に24年間従事、その間カリフォルニア大学デービス校で2年間客員研究員、日本有機農業学会事務局長・副会長を歴任。現在、福島県有機農業ネットワークおよび縮小社会研究会理事、自産自消実践家。農学博士。 **主な著書**「食べものとエネルギーの自産自消——3.11 後の持続可能な生き方」コモンズ、菅野正寿・長谷川浩編著(2012)「放射能に克つ農の営み—ふくしまから希望の 復興 へ」コモンズ。 **過去の論文等：**以下のリンクをご覧ください。<https://independent.academia.edu/HasegawaHiroshi>

理事：中森正茂 経歴・所属：千葉工業大学機械科卒業。大手電機メーカーに約16年間勤務後、環境NGO ジャパン・フォー・サステナビリティで10年ほどIT業務に従事。2009年に福島県・裏磐梯へ移住し、個人事業主としてテレワークを始める。2020年、気候変動問題を扱う地球デクラス研究所を設立。

理事：伊丹ルリ子 経歴・所属：武庫川女子大学 薬学部卒業。薬剤師（20余年）、調理師（10年）。農業（自然農8年、有機農業4年）。兵庫楽農生活センター楽農学校卒業後、農家資格を取得。現在、有機農業塾（保田茂 神戸大学名誉教授）在籍中。2020年、田畑8反（約8000㎡）を保田ぼかし有機農業実践農園として、希望者を募集。参加グループ代表4名で「雄岡山すぎの子会」を設立しました。2020年参加者25名。保田ぼかし有機農業は、だれでもどんな野菜でも同じ栽培方法で、健康的なおいしい野菜が出来ます。今後は、親子参加も歓迎したいです。健康は、食べ物から～ 免疫力アップには有機野菜を～ 自然環境改善に有機農業を拡大します～。

母なる地球を守ろう研究所 2020 年-2021 年セミナーの予定

すべてのセミナーは Zoom を使って行います。お申し込みはホームページからお願いします。
<https://www.motherearthresearchinstitute.org/>

● 「気候崩壊について知ろう」～ これからの 10 年が人類の未来を決める（全 3 回）～
日本は、2018 年 2019 年と 2 年連続で甚大な台風被害を受けました。被害がこれほど拡大した原因として、海水温が高かったため台風が衰えることなく本土を直撃したことがあげられます。そして、2020 年 9 月。台風 10 号は日本近海で急速に発達しています。以前はこんなことはありませんでした。

オーストラリアの火事（ブッシュファイアー）は観測史上空前の規模となり、5 ヶ月も続きました。火事がこれほどの規模になったのは、記録的な干ばつと熱波が原因です。火事は、シベリア、北アメリカ、アフリカ、ブラジルと世界各地でも発生しています。グリーンランドの氷河や北極海の海水が空前のスピードで融けています。氷が融けると太陽光の吸収が高まり、さらなる気温上昇を招きます。

食料生産を担う農業も、わたしたちの暮らしの安全も、安定した気候（母なる地球）が大前提です。その気候が崩壊の危機にあります。気候崩壊とはどんなことか、どうやったら止められるか、キホンから学んでみませんか。

セミナー内容

第 1 回「地球規模の気候崩壊」

第 2 回「気候崩壊をどうやって止めるか ～世界や日本政府の動向～」

第 3 回「気候崩壊をどうやって止めるか ～個人やグループでできること～」

2020 年開催スケジュール

開催日時)

9 月コース 9 月 15、22、29 日（火曜日）

11 月コース 14 日、21 日、28 日（土曜日）

時間) 20 時～22 時（講義 1 時間、意見交換 1 時間）

講師) 中森正茂（理事）

参加費) 各コース 3 回で、1,500 円

（学生は無料、学生証の写メを提示してください）

*セミナーは録画しますので、ダウンロードして後日聞き直すことも可能です。

● アグロエコロジー 一般向け入門編（2020 年コース）

地球規模の危機と日本固有の課題を解決する手段としてのアグロエコロジーを紹介する、一般向けの入門講座です。農業は生態系であり、食べものなどを供給する生産であり、農家が生計を立てる生業であり、国土を保全して農村景観を創る公共事業でもあります。食べ方次第で、生涯健康になれます。地球規模でも日本の地方でも問題が山積しています。課題山積の状況に対して、ソリューションとしてのアグロエコロジーをどうやって実現するか一緒に考えます。

セミナー内容

- 第 1 回 (10/6) 地球規模の気候崩壊、生物絶滅、化学物質汚染、水系汚染の危機
- 第 2 回 (10/13) 日本の農業、健康の現状、食べもので健康になれる
- 第 3 回 (10/20) 宇宙、地球、生物、文明、日本の農業の歴史
- 第 4 回 (10/27) 自然生態系、農業生態系
- 第 5 回 (11/3) 栽培植物、家畜
- 第 6 回 (11/10) 種苗、種畜（遺伝子資源）
- 第 7 回 (11/17) 土壌とは
- 第 8 回 (11/24) 共生、害虫、ほか生物間相互作用、
- 第 9 回 (12/1) 植生管理（雑草、カバークロップ）、地域資源の活用
- 第 10 回 (12/8) アグロエコロジーの原理原則
- 第 11 回 (12/15) アグロエコロジーが日本も世界も救う
- 第 12 回 (12/22) 社会をどうやってかえるか？

開催スケジュールと方法・経費

開催日時) 2020 年 10 月 6 日～2020 年 12 月 22 日、毎週火曜日（全 11 回）

時間) 20 時～22 時(講義 60 分、意見交換 60 分)

講師) 長谷川浩(理事長、農学博士、日本有機農業学会元副会長)

参加費) 7,000 円（セミナー12 回、拙著「食べものとエネルギーの自産自消」を含む）

（学生は無料ですが、感想文を書いてもらいます。本は付きません。学生証の写メを提示してください）

*セミナーは録画しますので、ダウンロードして後日聞き直すことも可能です。

● アグロエコロジー 農家向け基礎編（2020-21 年コース）

有機農法の基礎、世界で学ばれているアグロエコロジーを基礎から学びましょう。農業を生態系と捉えると、土壌、栽培植物、家畜、野生生物が生態系を構成します。生態系には、温度、水分、光、温度、風などの物理的な要因、土壌ではミネラルを保持したり根が吸収するなど化学的な側面も持ちます。農家は管理者として、農業生態系に働きかけます。農業生態系で起きていることは毎日、毎月、毎年、時々刻々と変化します。農業生態系は動的であり、これらの要素が高次に絡み合った究極の複雑系です。自分の田んぼや畑で起きている現象を解釈・説明するには、観察と経験に加えて基礎知識が必要です。基礎力アップで、農家力もアップをしましょう！

セミナー内容

- 第1回(11/5) 地球規模の気候崩壊、生物絶滅、化学物質汚染、水系汚染の危機
- 第2回(11/12) 日本の農業、食、健康の現状
- 第3回(11/19) 宇宙、地球、生物、文明の歴史
- 第4回(11/26) 生物物理化学の基礎
- 第5回(12/3) 食べものと健康
- 第6回(12/10) 自然生態系、農業生態系
- 第7回(12/17) 栽培植物、家畜
- 第8回(12/24) 土壌とは
- 第9回(1/7) 共生、害虫、ほか生物間相互作用
- 第10回(1/14) 植生管理(雑草、カバークロップ)
- 第11回(1/21) 地域資源の活用
- 第12回(1/28) 種苗、種畜(遺伝子資源)
- 第13回(2/4) アグロエコロジーの原理原則
- 第14回(2/11) 持続可能な農法の例
- 第15回(2/18) 人類と日本の未来を考える
- 第16回(2/25) 社会をどうやってかえるか?

開催スケジュール

開催日時) 2020年11月5日～2021年2月25日(全16回)

時間) 毎週木曜日19時半～21時半(講義1時間30分、意見交換30分)

講師) 長谷川浩(理事長、農学博士、日本有機農業学会元副会長)

参加費) 8,000円(新規参入者は5,000円)

*セミナーは録画しますので、ダウンロードして後日聞き直すことも可能です。

● **アグロエコロジー 稲作中級編（2021 年コース）**

稲作も土台が大切！。これまで悩まされてきた雑草対策も、代掻き前の草が生えにくい水田作り、代掻きによる雑草種子の埋没、雑草と競争力が高い苗づくり、田植え後の機械除草と技術の進歩には目まぐるしいものがあります。他にも、水田の土作り、湧かない田んぼ作り、水田土壌と水田雑草の基礎などについてお話します。

セミナー内容

第 1 回（3/4） 水田雑草と除草法

第 2 回（3/11） 水田土壌

第 3 回（3/18） 水田生態系

第 4 回（3/25） 栽培法の事例

* あらかじめ「農家向け基礎編」を履修してください。

開催スケジュール、費用など

開催日時） 2021 年 3 月 4 日～3 月 25 日＊毎週木曜日（全 4 回）

講師） 長谷川浩(理事長、農学博士、日本有機農業学会元副会長)

時間） 毎週木曜日 19 時半～21 時半(講義 1 時間 30 分、意見交換 30 分)

参 加 費） 3,000 円（新規参入者は 2,000 円）

*セミナーは録画しますので、ダウンロードして後日聞き直すことも可能です。

お金と自分を捨てた時、今までと違う「わたし」が動き出した

理事 伊丹ルリ子

私の転機

2011年3月11日、東日本大震災が発生し福島原子力発電所がメルトダウン。海岸付近は津波で流され、原発は制御不能になり、今も放射能汚染が続いています。テレビニュースで見る津波は、目を覆いたくなる恐ろしさでした。津波と地震で約20,000人の尊い命が失われました。「神も仏も無い！」と私はこの世に失望しました。しかし思い直して、「神様お願いします。わたしをお使いください。」と祈りました。私に何か解決策があったわけではなく信仰心も無く、単に神頼みでした。その夜、インターネットで農業のことを見ていると、兵庫楽農生活センターの楽農学校が生徒を募集していました。申込締切りの前日だったので、すぐにネットで手続きをして、次の日に学校へ行き面接を受けました。

農業学校

そして私は、農業する気分になっていたのも、通帳を全部夫に渡し、お金を手放した生活を始めました。楽農学校では、1人にハウス50mと畑約700㎡が与えられました。お金を手放すと、おどろくほど身軽になり、農業が楽しくて夜明けから暗くなるまで毎日農業学校に通いました。何が楽しいかと申しますと、自分の考えで動ける仕事で、結果の良し悪しも自分の経験に繋がり、毎日達成感があります。種をまいて芽が出た時は、かわいくて、「元気に大きくなってね」と声をかけてしまいます。ハウスでレタスが元気に育ちました。私は農薬も化学肥料も使わないので、ハウス内は病虫害で大変なことになるかも知れません。病気になったら、自然界へ戻して風通しを良くしてあげます。トラクターも自由に使わせていただけました。私は農薬の授業を受けながら、使用していないので、先生から白い目で見られ、孤立して陰湿な空気でした。しかし私は薬剤師でしたので、子どもたちの食べ物に農薬は使わない方針を変えませんでした。卒業する時に、先生が私に「有機コースを作っておくべきだったね。」と声をかけてくださって、うれしくなりました。私の人生で最も楽しい1年でした。

農産物加工

卒業時にセンター長から加工の仕事を勧めていただき、5年間させていただきました。しかしこれが最悪で、この間、商品ができませんでした。そして追い出されてしまいました。センター長にはお役に立てず申し訳ない限りです。商品もいろいろ作ってみたのですが、健康に良い加工品を作るのが難しく、手間暇かけて採算が取れないのです。そこで、無理なことはあきらめて、有機農作物の加工体験教室に5年間力を注ぎました。その場でつくってその場で試食していただけるので、安全で美味しく健康的です。子どもたち

に安全なおやつを食べさせたくて。毎回レシピを考えました。タイトルに「有機野菜のクリスマスケーキ」とか書いて募集します。ところが、美味しくて感動するものはなかなか出来ません。砂糖など調味料も素材から選び、当日も参加者に素材を見ていただいて、どんなものを選ぶかをお話ししました。毎月大変でした。前日になっても感動するほどのものが出来なくて、もうダメ〜と思うのですが、あきらめずにがんばりました。そうすると、当日の朝になって、アレっと思うほど美味しい玄米ケーキが出来るのです。その繰り返しで毎月1回、5年間していました。玄米シフォンケーキ、かぼちゃプリン、いちごコンフィチュール、さくらケーキ、玄米柏餅、梅ジュース、ピクルス、玄米パエリア、黒豆ごはん、切り干し大根、有機味噌・・・とお菓子や保存食をご家庭で作っていただきたくて、簡単に美味しく作れるように工夫しました。今考えてみると、毎回レシピが完成するのが、前日か当日なのですが、これは、人類に備わった能力かもしれない。オリンピック選手が当日に自己最高新記録を出すのと同じかも知れませんね。

有機農業塾

2017年 私は、加工室を撤退して、有機農業塾に参加させていただきました。神戸大学名誉教授の保田茂先生から有機農業が学べるとあって、大変人気があります。1年で終了ですが続けられる方も多いです。この年の途中で、ひょうご安心ブランド認証を兵庫県に申請しようという提案が受講生から出ました。希望される方も多数おられるようで、講師の西村先生が学校に申請業務を要請されていました。しかし、終了式当日、出来ないと言われて、私はそんなバカな、みなさん申し込書を書いて来ておられるのにと即学校に申し立てをしました。しかし返事は出来ないとのことでした。終了式も終わりに近づき仕方なく「わたしが団体申請します」と言ってしまいました。・・・先の見えない無謀なことでも、必要ならしてしまう「わたし」・・・すると、ひょうご安心ブランドを作られた西村先生が即座に対応してくださって、「会長は〇〇さんお願いします」とご指名。あと2人事務局員は、私が指名させていただきました。この一部始終を受講生みなさまは、見ておられたので、何事も無く決定しました、この時、この団体申請の大変さをだれも知る由もありませんでした。一難去って、また一難の繰り返しですが、ひょうご安心ブランド認証の保田ぼかし有機農業がスタート出来て、良かったと思います。

保田ぼかしは、保田茂先生が自然や環境や人の栄養などを考えて研究開発されたボカシです。(米ぬか6、油粕3、魚粉2、牡蠣殻石灰1、水2)を混ぜてビニール袋に詰め空気を抜き、低温嫌気性発酵させます。春夏は3週間で熟成します。畑は全面、草で覆い、草の栄養が土に入るとともに保水保温効果があり微生物が増えます。大災害で食料確保が困難となった時に、周りにある材料で保田ぼかしに近いボカシが作れたなら、どの作物も同じ栽培方法なので簡単に、だれでも野菜ができます。

気候危機

近年、異常気象が続き、2018 年は大型台風が次々来て、がけ崩れや洪水で大きな被害が出ました。

・気候非常事態宣言が 2020 年 4 月時点で 28 カ国の約 1500 自治体で出され、日本でも 2020 年 3 月時点で 15 自治体が出しています。

・2018 年 8 月から Friday for Future 若者たちの気候対策を求める行動が世界中で広まりました。国際連合の気候変動サミット 3 日前の 2019 年 9 月 20 日グローバル気候マーチは、世界史上最大の気候ストライキとなり、主催者によると 400 万人以上の人々が、世界中でストライキに参加したとの報告です。

全人類が「地球を守ろう」という同じ思いになって、がんばれば止められるのでしょうか、企業も政府も個人も世界会議も、地球サミットから 18 年たった今、まだ気候崩壊を止められません。このまま行けば、50 年後、子どもたちが、かわいそうなことになるかも知れません。今すぐみんなで方向転換して地域を守り、美しい地球で住み続けられるようにしませんか。2018 年から、世界各国が有機農業に切り替え始めました。CO2 を土中に固定するのと、生き物や微生物が増えて環境が良くなることなどから、気候崩壊を止める効果が期待されています。私は、日本中が有機農業か自然農になってほしいと願っています。

シェア農園

2020 年 1 月、私は、耕作していない農地をお借りして、有機農業をしたい方に提供することを考えました。同じ頃に、シルバーカレッジのお 2 人が農地を借りたいと申し出られたので、さっそく有機好きの地主さんをお願いをしました。私は、農業委員会を通して、賃貸契約をしました。農業委員会に行き、いろいろ村のことなど雑談しながら、話しの途中に言葉を挟んで、「新規就農者を育てるために、使われていない農地を有効活用して有機農業を広めたいのですが、問題点は何でしょうか？」と、お尋ねしました。担当の方は、やさしく話してくださいました。「伊丹さん、是非やってください。農業学校では、作物のことしか教えません。実際に農村で仕事をするための知識はだれも教えてくれません。そこが新規就農の問題点です。あなたは、すでに農家登録して 5 年以上たっていますから、大丈夫です」と応援してくださり、私はうれしくなりました。

私にしては大成功でした！

いえいえ、私じゃない、グローバル経済社会の外に居る「わたし」が動いている。

私が参加している団体です。訪問してみてください。「母なる地球を守ろう研究所」

<https://www.facebook.com/motherearthresearchinstitute>